

都市再生整備計画 事後評価シート

明治百年通り周辺地区

平成30年3月

秋田県小坂町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	秋田県	市町村名	小坂町	地区名	明治百年通り周辺地区			面積	116ha
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	682百万円	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	事業名				
		基幹事業	道路(1路線)／地域生活基盤施設(ポケットパーク、駐車場2箇所、案内板)／高質空間形成施設(モニュメント、プロムナード、緑化施設)／高次都市施設(観光交流センター)／既存建造物活用事業(観光交流センター)			
		提案事業	地域創造支援事業(上水道、下水道、施設渡り廊下、車両展示場、鉄道体験館、連絡路2路線、ベンチ、統一看板)			
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
			尾樽部駐車場		駐車場利用者の利便性と回遊性向上のため、事業箇所を古館地内に変更したため	「古館駐車場整備」事業を追加したため、影響なし
		小坂鉄道プロムナード		鉄道橋所有者の方針転換および代替ルートの有効性を確認したため	代替ルートの有効性が確認されており、影響なし	
		提案事業	小坂鉄道旅客車車両展示場		県の交付金事業で実施したため	事業期間内に関連事業で実施したため、影響なし
			小坂町中央地区統一看板		道路標識の形態としていたものを、地域生活基盤施設事業としての誘導サインとして一本化したため	誘導サインに一本化して実施したため、影響なし
		新たに追加 した事業	基幹事業	苦竹山崎線		生活道路としての安全性・利便性向上と、歴史的施設の有機的結びつき、回遊性の向上を図るため
	古館駐車場			駐車場利用者の利便性と回遊性向上のため、事業箇所を尾樽部から古館に変更したため	特に影響なし	
	提案事業		－		－	－
	交付期間 の変更	当 初	－	交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響	－	
変 更		－				

	指 標		従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標1	小坂町の観光客数	人/年	142,868	H22	164,000	H28	—	121,644	△	あり なし ● 冬期間の観光客数の伸び悩み、十和田湖の観光客数の減少の影響等により目標値には達しなかったが、震災後大きく落ち込んだ観光客数が回復傾向を見せている。 また、地区内で集客力のある新規のイベントが開催されるようになったことは評価できる。	なし
	指標2	活気があると感じる町民割合	%	15.4	H21	29.1	H28	—	9.2	×	あり なし ● 目標値に達しなかった要因として、少子高齢化社会の進展や消滅可能性都市の提唱(秋田県内で4位)など、全国的な影響も大きいと考えられる。 さらに、「まちの活気」の受け取り方は本事業以外にも様々な要因で変化することや、観光のオフシーズンに調査したこと、本町が以前小坂鉱山の発展により隆盛を誇ったこと(非常に活気があった時代と比較されてしまう)なども影響していると考えられる。 一方で、観光関連の民間会社が様々なイベントを開催するなど、整備した施設等を活用した活気創出の傾向が見られる。	なし
	指標3	観光振興の町民満足度	5段階評価	2.9/5.0	H21	3.4/5.0	H28	—	2.9/5.0	△	あり なし ● 目標値には達しなかったが、事業前のアンケート調査における「無回答」24.1%が、事後評価において8.8%となっており、事業により町民の観光への関心度が高まったと考えられる。 また、満足度(%)だけで比較すると、17.4%から23.0%に向上しているなど、一定の効果はあったと言える。 さらに、住民以外を対象としたWebアンケート結果によると、小坂町の観光満足度は7割、再訪意思は6割以上など、外部から一定の評価を得ていることも評価できる。	なし

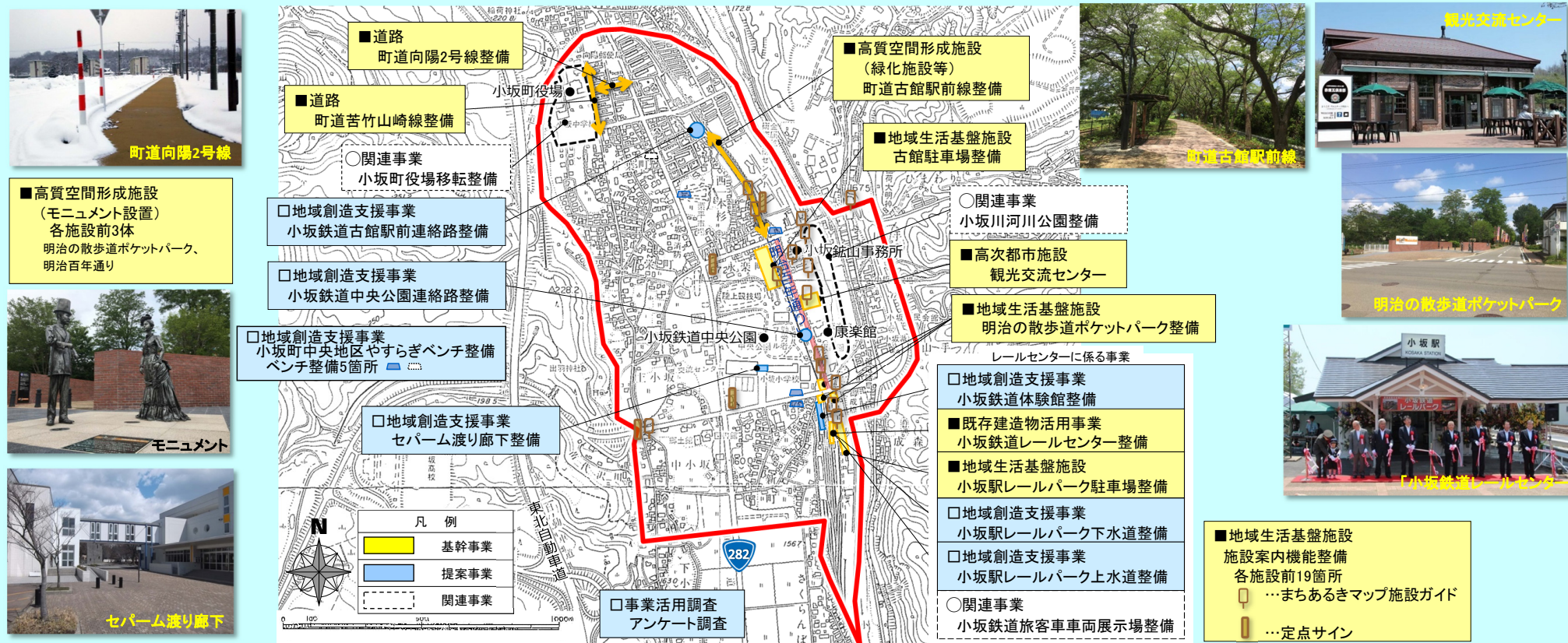
様式2－1 評価結果のまとめ

	指 標		従前値		目標値		数 値		目 標		1年以内の		効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み					
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)による効果発現状況	その他の 数値指標1	明治百年通りのイベント 開催回数	回	6	H22		—	9					明治百年通り周辺の歴史的資源を生かした各種整備や小坂鉄道レールパークの整備により、新たなイベントが開催されることとなり、地区内のにぎわいが向上した。 特に、クリスマスマーケットは参加者の評価が高く、当町の冬の代表的なイベントへととなりつつある。 また、鉄道まつりは事業をひとつの契機として官民連携体制が強化され、整備した施設を活用して様々な催し物が開催されるようになった。	なし
	その他の 数値指標2	観光交流センター利用者数	人/年	28,431	H22		—	33,285					歴史的建造物を活用した観光案内機能を併せ持つ休憩施設を整備したことにより、観光情報を求める利用者数が増加した。 また、住民も観光客も気軽に利用できる施設となったため、両者のふれあいの場になるなどの効果も現れている。	なし
	その他の 数値指標3	小中一貫教育の満足度	%	17.4	H21		—	43.8					セバームと小坂小中学校の校舎を渡り廊下でつないだことにより、日常的に子どもたちの元気な姿が地域住民の目に触れる機会が増加し、学校のイベントの参加者数が増加するなど、地域と学校との相互連携が強化された。	なし
	その他の 数値指標4	町内の道路網・道路整備の満足度	%	22.0	H21		—	35.5					移転した小坂町役場周辺の道路整備により、役場へのアクセス性が飛躍的に向上した。 また、道路の拡幅や歩道融雪整備を行ったことで、冬期間の歩行者の安全性の向上や、除雪の作業性も向上した。 さらに、桜並木の修景、案内板やポケットパーク等の整備により、住民や観光客の回遊性が向上し、観光振興の一助ともなっている。	なし
4)定性的な効果 発現状況	・小中学校と地域交流施設(いずれも既存)をつなぐ渡り廊下を整備したことにより、双方の行き来が容易になり、子どもたちの元気な姿が地域住民の目に触れるようになり、地域と学校の連携体制が向上し、地域向けの学校イベントの来訪者数が増加するなどの効果が現れている。 ・本事業をひとつの契機として町内の路線バス運行ルートが変更になり、住民と観光客の利便性が向上した。 ・小坂鉄道レールパークなどの整備により、観光客に鉄道ファンや若い家族連れが増えるなど、明治百年通りの来訪者層が変化している。 ・レールパークの整備に伴い、ブルートレインあけぼのでの宿泊機能が整備され、滞在型観光地への転換の一助となっている。 ・レールパークオープンから派生したものとして、スイーツ開発や「小坂駅弁」の開発、共通ロゴマークによる地域独自の商品作りなど、様々な方面への展開が行われている。 ・平成27年に実施した小中学生を対象としたまちづくりアンケート調査結果によると、小坂町の自慢できるところ(自由回答)として「小坂鉄道レールパーク」を挙げる回答が多いという結果が出ている。 ・旧小坂鉱山工作課原動室が移築され、「赤煉瓦にぎわい館」の名称で活用されており、国登録有形文化財に登録された。 ・旧小坂鉄道小坂駅本屋及びプラットホームと旧小坂鉄道小坂駅機関庫が、国登録有形文化財に登録された。 ・小坂鉄道レールパーク(及びかつらーめん)が、東北の魅力ある観光資源として観光庁が選定した「東北六県 見るもの・食べもの・買いもの 100選」のひとつに選ばれた。 ・NIKKEIプラス1の企画において、「安心して訪ねられる廃線路」の第8位に小坂鉄道が選ばれた。 ・本都市再生整備計画が、第11回まち交大賞の「創意工夫大賞」を受賞し、事業の独自性について専門家から高い評価を得たとともに、知名度の向上に寄与している。													
5)実施過程の評価		実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	まちづくりのための町民意識調査の実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた				今後も各種施策に対する住民意向の継続的な把握に努める。				
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	【都市再生整備計画に記載した整備方針】 行政及び地元住民・企業とのまちづくりに関する協議会等を定期的に開催し、明治百年通り、栗平地区に整備するにぎわい拠点での社会実験等の企画や役割分担などを話し合い、にぎわい創出に向けた施策展開を推進する。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				町の施策の情報発信と住民の意見聴取の場を設けることを検討していく。				
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった														
持続的なまちづくり体制の構築状況	小坂鉄道保存会との連携 小坂まちづくり株式会社との連携 観光ボランティアグループとの連携				都市再生整備計画に記載し、実施できた				今後も各種団体と積極的に連携し、持続的なまちづくり体制を構築していく。					
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した														
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										

様式2-2 地区の概要

明治百年通り周辺地区（秋田県小坂町）都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:「歴史性」「文化性」「生活利便性」が調和した、にぎわいと親しみのあるまちづくり 目標①:観光客が「現在・過去・未来」の小坂町を実感することができる空間の形成 目標②:地域住民が親しみを持ち、日常的に利用でき、併せて観光客と交流ができるにぎわい施設の整備	小坂町の観光客数	人／年	142,868	H22	164,000	H28	121,644	H28
	活気があると感じる町民割合	%	15.4	H21	29.1	H28	9.2	H29
	観光振興の町民満足度	5段階評価	2.9/5.0	H21	3.4/5.0	H28	2.9/5.0	H28
	明治百年通りのイベント開催回数	回	6	H22			9	H28
	観光交流センター利用者数	人／年	28,431	H22			33,285	H28
	小中一貫教育の満足度	%	17.4	H21			43.8	H29
	町内の道路網・道路整備の満足度	%	22.0	H21			35.5	H29



まちの課題の変化

・歴史的観光資源等を活用した各種事業の展開や、景観に配慮した施設整備などにより、明治百年通り周辺のかつての面影が体験できる空間が創出されたとともに雰囲気向上し、住民や来訪者から好評を得ている。

・事業により整備した小坂鉄道レールセンターは、貴重な歴史資源を活用した町の体験型観光施設の核のひとつとなりつつあり、SNSやマスコミ取材等により地域の認知度が向上し、観光客からの評判も高く、小中学生を含めた住民から「自慢の施設」と評価されている。

・道路や案内板、休憩ベンチ、ポケットパーク等の整備により、住民と来訪者の回遊性やまちなかへの誘導性、利便性が向上したとともに、統一性のある景観の向上にも寄与している。

・観光交流センターの整備により住民と来訪者または住民同士の新たな交流の機会や場が創出された。また、学校と地域交流施設の渡り廊下の整備により、子どもたちの姿が地域の人たちの目に触れる機会が増加し、学校と地域との相互交流や連携体制が向上した。

今後のまちづくり
の方策
(改善策を含む)

- ・歴史的建造物の定期的な点検や維持管理のほか、整備した施設を有効に活用するとともに、各種計画とも連動して更なる観光振興や景観の向上を図る。
- ・にぎわいの創出や継続には住民や民間の力が不可欠であり、行政が総合的な視点でまちづくりの方向性を示しながら、官民の共通認識の醸成のもと、協働のまちづくりを推進していく必要がある。
- ・地域連携DMO秋田犬ツーリズムの活動を支援し、周辺市町との連携やインバウンドの受け入れ体制の強化などを進め、通年で観光振興に努める。
- ・事業の効果をさらに発揮するために必要な追加整備について、費用対効果等を鑑みた検討を行い、効果を発揮するようなソフト施策を含めた必要な事業を実施していく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標1：157,000人/年	指標1：164,000人/年	区域の拡大に伴い、事業効果を受ける観光施設の増を見込み、目標値を上方修正した。
D. その他(区域面積)	●		70ha	116ha	町中心部の歴史的建造物を総合的につなげることにより来訪者の観光意欲を高め、まちあるきを促し、また住民との交流を広げにぎわいを増すことを目的として、区域拡大を行った。

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	町道向陽2号線整備	86	W=11.5m,L=110m	65	W=11.5m,L=110m	地権者との協議により、補償費を事業者が行う補償工事へ変更したことなどによる減	特になし	●	
	町道苦竹山崎線整備	—	—	59	W=9.5m,L=240m	生活道路としての安全性・利便性向上と、歴史的施設の有機的結びつき、回遊性の向上を図るため事業を追加	指標2(活気があると感じる町民割合)に影響するが、目標値の変更は据え置く	●	
公園									
地域生活基盤施設	明治の散歩道ポケットパーク整備	18	A=200㎡	70	A=200㎡	誘導性とおもてなし向上の効果を図るため、交差点片側への整備から両側整備に変更したための増	指標3(観光振興の町民満足度)に影響するが、目標値の変更は据え置く	●	
	小坂駅レールパーク駐車場整備	7	乗用車120台分	7	乗用車70台分	事業内容の精査による規模縮小	指標4(観光振興の町民満足度)に影響するが、目標値の変更は据え置く	●	
	尾樽部駐車場整備	7	観光バス20台分、一般車両120台分	—	—	事業削除(古館駐車場に変更)	事業箇所の変更のため、特に影響なし	●	
	古館駐車場整備	—	—	31	大型バス6台分、一般車両80台分(うち身障者用2台分)	駐車場利用者の利便性と回遊性向上のため、事業箇所を尾樽部から古館に変更	事業箇所の変更のため、特に影響なし	●	
	案内板機能整備	9	まち歩きマップ・施設ガイド15箇所	69	まち歩きマップ・施設ガイド15箇所、定点サイン4箇所	利便性の更なる向上のため、設置箇所の増加による事業費増(一部地域創造支援事業から移行)	指標3(観光振興の町民満足度)に影響するが、目標値の変更は据え置く	●	
高質空間形成施設	モニュメント設置	32	5体	25	3体	事業内容の精査による設置箇所・設置数の変更のための減	指標3(観光振興の町民満足度)に影響するが、目標値の変更は据え置く	●	
	小坂鉄道プロムナード整備	107	L=400m	—	—	鉄道橋所有者の方針転換および代替ルートの有効性を確認したため、事業削除	指標3(観光振興の町民満足度)に影響するが、目標値の変更は据え置く	—	
	町道古館駅前線整備事業(緑化施設)	224	L=310m	94	L=310m	事業内容の精査により、仕上材のグレード変更等による減	指標3(観光振興の町民満足度)に影響するが、目標値の変更は据え置く	●	
高次都市施設	賑わい拠点整備(観光交流センター)	84	延床A=95㎡	43	延床A=95㎡	事業費の精査による減	特になし	●	
既存建造物活用事業	小坂鉄道レール・センター整備(観光交流センター)	37	延床A=227㎡	44	延床A=227㎡	事業費の精査による増	特になし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 （事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業（都市再生）									
住宅市街地総合整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	小坂町レールパーク上水道整備	7	L=150m	1	L=150m	事業内容の精査による事業費減	特になし	●	
	小坂町レールパーク下水道整備	11	L=150m	8	L=150m	事業内容の精査による事業費減	特になし	●	
	セパーム渡り廊下整備	35	A=43.75㎡,L=17.5m	36	A=43.75㎡,L=17.5m	事業内容の精査による事業費増	特になし	●	
	小坂鉄道旅客車両展示場整備	65	A=150㎡	—	—	県の交付金事業での実施のため、事業削除(関連事業へ移行)	関連事業に移行のため、特に影響なし	—	
	小坂鉄道体験館整備	61	A=1,163㎡	112	A=1,163㎡	耐震補強の追加による事業費増	特になし	●	
	小坂鉄道中央公園連絡路整備	6	W=4m,L=60m	6	W=4m,L=60m	整備内容の追加による事業費増	特になし	●	
	小坂鉄道古館駅前連絡路整備	6	W=4m,L=40m	6	W=4m,L=22m	現場調整による延長変更による事業費減	特になし	●	
	小坂町中央地区やすらぎベンチ整備	4	8箇所	4	5箇所	事業内容の精査による事業箇所減 (※交付対象4基、対象外1基)	特になし	●	
	小坂町中央地区統一看板整備	15	8箇所	—	—	地域生活基盤施設/案内板機能整備に移行による事業削除	基幹事業に移行のため、特に影響なし	●	
事業活用調査	アンケート調査	2	一式	2	一式	—	—		
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
小坂町役場移転		小坂町役場移転整備事業			H25～H26	H25～H26	完了	
河川公園整備		小坂川河川公園整備事業			H25～H28	H25～H28	完了	
小坂鉄道客車車両展示場整備		小坂鉄道客車車両展示場整備事業			H24	H24	完了	

添付様式 2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) ※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値 (エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
	単位				基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし
指標1	小坂町の観光客数	人 / 年	・町が毎年集計する「月別・観光地点別入込客延べ人数」より、町中心部の観光施設や行祭事の入込客数を集計し、評価値とした。 ・本指標に係る事業は完了していることから、評価値は確定値とする。	118,415	H23	142,868	H22	164,000	H28	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
										事後評価	確定 ●	121,644	事後評価	△		
指標2	活気があると感じる町民割合	%	・アンケート調査を実施し、「活気のあるまち」という印象について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答割合の合計を評価値とした。 ・本指標に係る事業は完了していることから、評価値は確定値とする。	—	—	15.4	H21	29.1	H28	モニタリング	—	—	モニタリング	—		●
										事後評価	確定 ●	9.2	事後評価	×		
指標3	観光振興の町民満足度	5段階評価	・アンケート調査を実施し、「観光振興の町民満足度」について、満足:5点～不満:1点として加重平均値を算出し、評価値とした。 ・本指標に係る事業は完了していることから、評価値は確定値とする。	—	—	2.9/5.0	H21	3.4/5.0	H28	モニタリング	—	—	モニタリング	—		●
										事後評価	確定 ●	2.9/5.0	事後評価	△		
指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)								その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)							
指標1	目標値には達しなかったが、震災の影響で大きく落ち込んだ観光入込客数が、事業の効果もあり、近年回復傾向を見せているため「△」とした。								—							
指標2	目標値を達成せず、中間年次に実施した調査結果よりも低い数値となったため「×」とした。								—							
指標3	目標値には達しなかったが、中間年次の計測値ともに従前値から現状維持となったため「△」とした。								—							

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) ※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値 (ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課 題等)
		単位			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標 1	明治百年通りのイ ベント開催回数	回	・明治百年通りを中心として開催されたイベントの開催 回数について、記録資料により把握して算出した。 ・本指標に係る事業は完了していることから、評価値 は確定値とする。	—	—	6	H22	モニタリング	—	—	明治百年通り周辺で各種整備 を実施したことにより、イベント 開催の機会が増えたことから、 にぎわいの創出を説明する指 標として適切であるため。	指標1: 観光客数を補完説明 するもの。
								事後評価	確定 ●	9		
								見込み				
その他の 数値指標 2	観光交流センター利 用者数	人 / 年	・小坂鉱山事務所と赤煉瓦にぎわい館の利用者数を 記録資料により把握して算出した。 ・本指標に係る事業は完了していることから、評価値 は確定値とする。	—	—	28,431	H22	モニタリング	—	—	観光交流センターを整備したこ とにより、地域住民が日常的に 集う機会や、観光客との交流機 会が増加したことから、活気の 創出を説明する指標として適切 であるため。	指標2: 活気があると感じる割 合を補完説明するもの。
								事後評価	確定 ●	33,285		
								見込み				
その他の 数値指標 3	小中一貫教育の満足 度	%	・アンケート調査を実施し、小中一貫教育の取組につ いて、「満足」と「やや満足」の回答割合を合計して算 出した。 ・本指標に係る事業は完了していることから、評価値 は確定値とする。	—	—	17.4	H21	モニタリング	—	—	セパームと小坂小中学校校舎 の渡り廊下を整備したことによ り、子どもたちと地域住民との ふれあいの機会が増加したこと から、活気の創出を説明する指 標として適切であるため。	指標2: 活気があると感じる割 合を補完説明するもの。
								事後評価	確定 ●	43.8		
								見込み				
その他の 数値指標 4	町内の道路網・道路 整備の満足度	%	・アンケート調査を実施し、町内の道路網・道路整備に ついて、「満足」と「やや満足」の回答割合を合計して 算出した。 ・本指標に係る事業は完了していることから、評価値 は確定値とする。	—	—	22.0	H21	モニタリング	—	—	道路整備や案内板・回遊ルート の整備により、町民の生活利便 性や観光客の回遊性が向上し たことから、にぎわいと親しみ のあるまちづくりや観光振興を 説明する指標として適切である ため。	指標3: 観光振興の満足度を 補完説明するもの。
								事後評価	確定 ●	35.5		
								見込み				

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・小中学校と地域交流施設（いずれも既存）をつなぐ渡り廊下を整備したことにより、双方の行き来が容易になり、子どもたちの元気な姿が地域住民の目に触れるようになり、地域と学校の連携体制が向上し、地域向けの学校イベントの来訪者数が増加するなどの効果が現れている。 ・本事業をひとつの契機として町内の路線バス運行ルートが変更になり、住民と観光客の利便性が向上した。 ・小坂鉄道レールパークなどの整備により、観光客に鉄道ファンや若い家族連れが増えるなど、明治百年通りの来訪者層が変化している。 ・レールパークの整備に伴い、ブルートレインあけぼのでの宿泊機能が整備され、滞在型観光地への転換の一助となっている。 ・レールパークオープンから派生したものとして、スイーツ開発や「小坂駅弁」の開発、共通ロゴマークによる地域独自の商品作りなど、様々な方面への展開が行われている。 ・平成27年に実施した小中学生を対象としたまちづくりアンケート調査結果によると、小坂町の自慢できるところ（自由回答）として「小坂鉄道レールパーク」を挙げる回答が多いという結果が出ている。 ・旧小坂鉱山工作課原動室が移築され、「赤煉瓦にぎわい館」の名称で活用されており、国登録有形文化財に登録された。 ・旧小坂鉄道小坂駅本屋及びプラットホームと旧小坂鉄道小坂駅機関車庫が、国登録有形文化財に登録された。 ・小坂鉄道レールパーク（及びかつらーめん）が、東北の魅力ある観光資源として観光庁が選定した「東北六県 見るもの・食べるもの・買ひもの 100選」のひとつに選ばれた。 ・NIKKIプラス1の企画において、「安心して訪ねられる廃線路」の第8位に小坂鉄道が選ばれた。 ・本都市再生整備計画が、第11回まち交大賞の「創意工夫大賞」を受賞し、事業の独自性について専門家から高い評価を得たとともに、知名度の向上に寄与している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくりのための町民意識調査の実施	予定どおり実施した	● 【実施頻度】1回 【実施時期】平成27年2月 【実施結果】「第5次小坂町総合計画 後期基本計画」策定に係るアンケート調査を実施。指標2「活気があると感じる町民割合」、指標3「観光施策の町民満足度」の中間結果を把握し、事業の推進に努めた。	今後も各種施策に対する住民意向の継続的な把握に努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
【都市再生整備計画に記載した整備方針】 行政及び地元住民・企業とのまちづくりに 関する協議会等を定期的に開催し、明治 百年通り、栗平地区に整備するにぎわい拠 点での社会実験等の企画や役割分担など を話し合い、にぎわい創出に向けた施策展 開を推進する。	予定どおり実施した	—	町の施策の情報発信と住民の意見聴取 の場を設けることを検討していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
小坂鉄道保存会との連携	予定どおり実施した	●	鉄道まつりなどのイベントを、町と連携して実施	組織名：小坂鉄道保存会	今後も各種団体と積極的に連携し、持続的なまちづくり体制を構築していく。
	予定はなかったが実施した			概要：小坂鉄道の産業遺産を未来に引き継ぐため、保存活動とともに体験事業の担い手として活動している。	
	予定したが実施できなかった				
小坂まちづくり株式会社との連携	予定どおり実施した	●	町の多くの文化財等の指定管理者に指定され、施設の管理運営や観光振興事業を実施	組織名：小坂まちづくり株式会社	
	予定はなかったが実施した			概要：平成23年2月28日に設立、従業員33名	
	予定したが実施できなかった				
町民主体の観光ボランティアグループとの連携	予定どおり実施した	●	観光ボランティアとして、イベント時のみならず要請があれば平時でも観光案内などを実施	組織名：小坂町観光案内人協議会	
	予定はなかったが実施した			概要：登録者数21名	
	予定したが実施できなかった				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会	総務課長、町民課長、観光産業課長、建設課長、町史編さん室長、出納室長、教育委員会事務局長、議会事務局長	平成30年2月1日	建設課(主管課)、総務課

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3		その他の数値指標4			
指 標 名		イベント開催回数		観光交流センター利用人数		小中一貫教育の満足度		町内の道路網・道路整備の満足度			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】町道向陽2号線	○	明治百年通り周辺の歴史的資源を生かした各種整備や小坂鉄道レールパークの整備により、新たなイベントが開催されることとなり、地区内のにぎわいが向上した。	—	歴史的建造物を活用した観光案内機能を併せ持つ休憩施設を整備したことにより、観光情報を求める利用人数が増加した。	—	セパームと小坂小中学校の校舎を渡り廊下でつないだことにより、日常的に子どもたちの元気な姿が地域住民の目に触れる機会が増加し、学校のイベントの参加者数が増加するなど、地域と学校との相互連携が強化された。	◎	移転した小坂町役場周辺の道路整備により、役場へのアクセス性が飛躍的に向上した。	—	
	【道路】町道苦竹山崎線整備	○		—		—		◎		—	
	【地域生活基盤施設】明治の散歩道ポケットパーク	◎		○		○		○		—	
	【地域生活基盤施設】小坂町レールパーク駐車場	◎		○		—		○		—	
	【地域生活基盤施設】尾梅部駐車場※	—		—		—		—		—	
	【地域生活基盤施設】古館駐車場整備	◎		○		○		○		—	
	【地域生活基盤施設】案内板	◎		○		○		○		—	
	【地域生活基盤施設】小坂鉄道ブロムナード※	—		—		—		△		—	
	【高質空間形成施設】モニュメント設置	○		○		—		—		—	
	【高質空間形成施設】町道古館駅前線(緑化施設)	○		○		—		◎		—	
提案事業	【高次都市施設】にぎわい拠点(観光交流センター)	◎	特に、クリスマスマーケットは参加者の評価が高く、当町の冬の代表的なイベントへととなりつつある。	◎	また、両者のふれあいの場になるなどの効果も現れている。	—		—	さらに、桜並木の修景、案内板やポケットパーク等の整備により、住民や観光客の回遊性が向上し、観光振興の一助ともなっている。	—	
	【既存建造物活用事業】小坂鉄道レールセンター	◎		○		—		—		—	
	【地域創造支援事業】小坂駅レールパーク上水道	○		○		—		—		—	
	【地域創造支援事業】小坂駅レールパーク下水道	○		○		—		—		—	
	【地域創造支援事業】セパーム渡り廊下	○		◎		◎		—		—	
	【地域創造支援事業】小坂鉄道旅客車両展示場※	—		—		—		—		—	
	【地域創造支援事業】小坂鉄道体験館	◎		○		○		◎		—	
	【地域創造支援事業】小坂鉄道中央公園連絡路	◎		○		○		◎		—	
	【地域創造支援事業】小坂鉄道古館駅前連絡路	◎		○		—		◎		—	
	【地域創造支援事業】小坂町中央地区やすらぎベンチ	○		○		○		○		—	
関連事業	【地域創造支援事業】小坂町中央地区統一看板※	—	また、鉄道まつりは事業をひとつの契機として官民連携体制が強化され、整備した施設を活用して様々な催し物が開催されるようになった。	—		—		—		—	
	【事業活用調査】アンケート調査	○		○		○		○		—	
	小坂町役場移転整備事業	○		○		○		○		—	
	小坂川河川公園整備事業	○		○		—		—		—	
	小坂鉄道客車車両展示場整備事業	◎		○		—		—		—	

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も「活用なくして保存なし」をテーマに近代化産業遺産群の活用を図るとともに、イベントが継続して実施されるように、官民連携の強化やPRに努める。 また、周辺市町のイベント来訪者を呼び込めるような対策や連携体制づくりを検討する。	観光振興に資するよう、利用人数向上を目指してPRを強化する。	整備効果が継続するよう、学校の安全性を確保した上で更なる交流機会の増加を検討する。	整備効果が継続するよう、整備が必要な箇所についての検討を進める。	
-------	--	--------------------------------	---	----------------------------------	--

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3								
指 標 名		小坂町の観光客数			活気があると感じる町民割合			観光振興の町民満足度								
種別	事業名・箇所名	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因 の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因 の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因 の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因 の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因 の 分類
基幹事業	【道路】町道向陽2号線	—	冬期間の観光客数の伸び悩み、十和田湖の観光客数の減少の影響等により目標値には達しなかったが、震災後大きく落ち込んだ観光客数が回復傾向を見せている。また、地区内で集客力のある新規のイベントが開催されるようになったことは評価できる。	Ⅳ	—	目標値に達しなかった要因として、少子高齢化社会の進展や消滅可能性都市の提唱(秋田県内で4位)など、全国的な影響も大きいと考えられる。さらに、「まちの活気」の受け取り方は本事業以外にも様々な要因で変化することや、観光のオフシーズンに調査したこと、本町が以前小坂鉱山の発展により隆盛を誇ったこと(非常に活気があった時代と比較されてしまう)なども影響していると考えられる。	Ⅲ	—	目標値には達しなかったが、事業前のアンケート調査における「無回答」24.1%が、事後評価において8.8%となっており、事業により町民の観光への関心度が高まったと考えられる。	Ⅲ	—	また、満足度(%)だけで比較すると、17.4%から23.0%に向上しているなど、一定の効果はあったと言える。		—		
	【道路】町道苦竹山崎線整備	—			—			—			—					
	【地域生活基盤施設】明治の散歩道ホケットパーク	△			△			△			△					
	【地域生活基盤施設】小坂町レールパーク駐車場	△			△			△			△					
	【地域生活基盤施設】尾樽部駐車場※	—			—			—			—					
	【地域生活基盤施設】古館駐車場整備	△			△			△			△					
	【地域生活基盤施設】案内板	△			△			△			△					
	【地域生活基盤施設】小坂鉄道プロムナード※	—			—			—			—					
	【高質空間形成施設】モニュメント設置	△			△			△			△					
	【高質空間形成施設】町道古館駅前線(緑化施設)	△			△			△			△					
	【高次都市施設】にぎわい拠点(観光交流センター)	△			△			△			△					
	【既存建造物活用事業】小坂鉄道レールセンター	△			△			△			△					
提案事業	【地域創造支援事業】小坂駅レールパーク上水道	△	一方で、観光関連の民間会社が様々なイベントを開催するなど、整備した施設等を活用した活気創出の傾向が見られる。	Ⅲ	△	民間会社が様々なイベントを開催するなど、整備した施設等を活用した活気創出の傾向が見られる。		△	さらに、住民以外を対象としたWebアンケート結果によると、小坂町の観光満足度は7割、再訪意思は6割以上など、外部から一定の評価を得ていることも評価できる。		△			△		
	【地域創造支援事業】小坂駅レールパーク下水道	△			△			△			△					
	【地域創造支援事業】セパーム渡り廊下	△			△			△			△					
	【地域創造支援事業】小坂鉄道旅客車車両展示場※	—			—			—			—					
	【地域創造支援事業】小坂鉄道体験館	△			△			△			△					
	【地域創造支援事業】小坂鉄道中央公園連絡路	△			△			△			△					
	【地域創造支援事業】小坂鉄道古館駅前連絡路	△			△			△			△					
	【地域創造支援事業】小坂町中央地区やすらぎベンチ	△			△			△			△					
	【事業活用調査】アンケート調査	△			△			△			△					
関連事業	小坂町役場移転整備事業	—			△			△			△			△		
	小坂川河川公園整備事業	△			△			△			△					
	小坂鉄道客車車両展示場整備事業	△			△			△			△					

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。
※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	にぎわい創出の機運を逃さず、民間事業者や住民、秋田犬ツーリズム(DMO)などと連携した通年の観光施策を検討・推進する。	実施事業の活用とPRを強化して、本町の基幹産業のひとつである観光振興による活気の創出と、周辺商店街への誘導による活性化を図る。	実施事業の活用とPR、また各種団体や周辺市町との連携強化、観光振興計画や景観計画に基づいた景観の保全と活用などにより、町の観光振興を図る。		
------------------	---	---	---	--	--

（４）今後のまちづくり方策の作成

添付様式５－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会	総務課長、町民課長、観光産業課長、建設課長、町史編さん室長、出納室長、教育委員会事務局長、議会事務局長	平成30年2月1日	建設課（主管課）、総務課

添付様式５－② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
1. 市街地は建物の老朽化や店舗の郊外化・大型化などの影響により、かつての面影がなくなっている	・高さを工夫した人間造型のモニュメントを設置したことにより、来訪者が当時の面影や雰囲気を感じられるようになった。 ・平成26年に「小坂町景観計画」が策定され、概ね本区域が景観重点地区に指定されたことなどから、かつての面影を保全し、活用する機運が高まっている。		
2. 明治百年通りの町民の日常的な利用は、かつてほど見られなくなっている	・ポケットパークの整備により、明治百年通りへの来訪者や通行者の誘導性が向上した。 ・明治百年通りに面して休憩や喫茶の機能を有する観光交流センターを整備したことにより、観光客だけでなく町民も気軽に訪れる場が確保された。 ・セバームと学校の渡り廊下を整備したことにより、学校と地域の相互連携や交流の機会が増加した。	・赤煉瓦にぎわい館や小坂鉄道レールパークは冬期間閉鎖されているため、冬期間の明治百年通りへの集客力のアップが必要となっている。	
3. 区域西側の総合公園・交流施設と明治百年通りが旧鉄道線路に分断されているため、行き来がしづらくなっている	・駐車場の整備により、特にイベント時における駐車場不足の解消に大きく貢献した。 ・明治百年通りと中央公園は、連絡路の整備によりアクセス性が格段に向上した。	・日常の利用者数はまだ少ない状況である。	
4. 廃線となった小坂鉄道の設備を、近代化産業遺産として利活用することが望まれる	・明治42年小坂鉄道開業当時の建築とされる旧駅舎を観光資源として活用することにより、明治を基調とした景観の向上にも寄与している。 ・レールパークに上下水道を整備したことにより、安定した水の運用と利用者の利便性や水環境への対策が向上した。 ・廃線となった小坂鉄道の設備を近代化産業遺産として利活用することができ、今後町を代表する観光施設の役割を担うことが期待される。		・冬期間の観光利用客が少ない状況である。
5. 地域資源を活用したまちなか再生に取り組むことにより、観光客と地域住民との交流が必要である	・駐車場の整備により、特にイベント時の利便性が向上した。 ・各所に案内看板を設置することにより、小坂町の鉱山に関する歴史の周知が図られたとともに、統一感のある素材により案内だけでなく景観の向上にも寄与している。 ・モニュメントを明治百年通りへの導入部分に設置することで、通行者の興味・関心を喚起し、誘導を図ることができた。 ・景観や歩行性が悪く観光にも活用されていなかった桜並木を修景整備したことにより、住民や観光客から見直され、通行者が増加した。	・修景した桜並木の終点に目的施設等の楽しみがないことから、延伸や目的施設整備等を検討する必要がある。	・案内板の場所や内容が分かりづらい等の意見が寄せられている。 ・桜並木の利用者増により、犬のフンの不始末やゴミ・タバコのポイ捨てなどのマナーの問題が発生している。
6. 現在、明治百年通りを訪れる観光客が、栗平地区の商店街に足を運ぶことはない	・新たに整備した古館さくら小道と一本杉地区との歩道接続、踏切設置により利便性が向上した。 ・案内板ややすらぎベンチを栗平商店街にも設置したことにより、まちなかを歩く人たちの回遊性が向上した。		・やすらぎベンチの増設や日除け・雨よけのための屋根の設置要望が出されている。
7. 小坂中学校の跡地利用として、小坂町役場の移転が計画されている	・役場周辺道路の整備により、移転した役場へのアクセスが飛躍的に向上した。	・都市計画道路整備が遅れていることから、一部事業効果を発しにくい状況となっている。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	かつての面影や雰囲気の保全と活用	・老朽化した歴史的建造物等の補修などを必要に応じ検討する ・公共施設等総合管理計画や景観計画を活用しながら、周辺住民や来訪者への景観保全の意識付けを強化する	・施設の継続的な点検や維持管理 ・ホームページや広報での特集記事掲載 等
	地区内のにぎわいの持続	・今後は整備した施設や資源の更なる活用に主眼を置く ・にぎわい持続の取り組みについては町が総合的な指針を作り、地域住民や団体との共通理解を求め、支援や継続的な協働実施体制を構築していく	・イベントの継続開催 ・文化財等のPR強化 ・情報受発信のための町民向けSNS講座
	更なる観光振興	・観光は行政のみならず、住民や民間、DMO(秋田犬ツーリズム)との連携による実施が重要 ・DMOが柱のひとつとしているインバウンドの取り込みもこれからの観光振興には重要 ・総合計画策定に係る住民アンケート調査や、DMOが毎年計測する必須KPIの結果を分析し、観光振興に資することが重要 ・十和田湖との連携を強化し、観光客のまちなかへの流入を図る	・DMOの取組への支援と共同実施 ・周辺市町との連携 ・インバウンド受入態勢やおもてなしの向上 ・アンケート調査結果の分析

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	冬期間の集客力向上	・冬期間は閉鎖する施設もあることから、イベントなどのソフト的な取組を強化し、通年での観光客を呼び込むことが重要	・冬期間イベントの継続開催と強化 ・通年営業の検討
	事業効果を発揮するための追加整備の検討	・長期未着手の都市計画道路やベンチへの屋根設置などの整備について、費用対効果等を見極めた上で検討する ・案内板の内容を補完し、来訪者の回遊性を向上するためのソフト施策を検討する	・都市計画道路の見通しの検討 ・やすらぎベンチの増設・屋根設置 ・回遊性向上のためのサインと連動したパンフレットの作成
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・行政は庁内横断的な体制のもと総合的な視点でまちづくりの計画や企画を立て、住民に方向性を示し、実効性のあるものにすることが必要。 ・行政と町民との情報共有の場を設け、「皆でつくるまちづくり」という共通理解のもとで各種施策を実行することが重要。 ・女性や若者も積極的に巻き込みながら、にぎわい創出やまちづくりの小さな機会・機運を醸成することから始め、大きな活動としていくことが重要。 ・住民アンケート結果によると、町の情報の受発信には広報のほかメールやSNSも有効であることから、これらを有効活用できるような講座等の開催も必要。
--

添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2ー①、2ー②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2ー①、2ー②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標			従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
		単位										予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	小坂町の観光客数	人／年	142,868	H22	164,000	H28	確定	●	121,644	△	あり	→	なし		
							見込み				なし				
指標2	活気があると感じる町民割合	%	15.4	H21	29.1	H28	確定	●	9.2	×	あり	→	なし		
							見込み				なし				
指標3	観光振興の町民満足度	5段階評価	2.9/5.0	H21	3.4/5.0	H28	確定	●	2.9/5.0	△	あり	→	なし		
							見込み				なし				
							確定				あり	→			
							見込み				なし				
その他の数値指標1	明治百年通りのイベント開催回数	回	6	H22			確定	●	9			→	なし		
							見込み								
その他の数値指標2	観光交流センター利用者数	人/年	28,431	H22			確定	●	33,285			→	なし		
							見込み								
その他の数値指標3	小中一貫教育の満足度	%	17.4	H21			確定	●	43.8			→	なし		
							見込み								
その他の数値指標4	町内の道路網・道路整備の満足度	%	22.0	H21			確定	●	35.5			→	なし		
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・アンケート調査の際、自由意見なども参考にできるような設問を検討することが望ましい(理由を具体的に記入してもらう、など)
	うまく いかなかった点	・「まちの活気」は様々な要因に影響されることから、事業の効果を数値で把握するという目的を十分に達成できなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		・行政と町民、庁内各課との情報受発信や意見交換の機会や場を設置する。意見交換会だけでなく、SNSの活用も考えられる
	うまく いかなかった点	・事業期間中は住民への説明の場を設けることができず、行政の担当課のみでの実施事業が多くなってしまったことから、官民協働や庁内横断的な事業実施とすることができなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・観光入込客数は町が継続的に集計していること、また観光満足度はDMOが継続計測するものであることから、事業終了後も継続して事業効果を把握することができる。	・今後も継続したPDCAサイクルを推進していく
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点	・本都市再生整備計画がまち交大賞の創意工夫大賞を受賞し、事業の独自性等について専門家から高い評価を得たとともに、地区の知名度が向上した。	
	うまく いかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

現時点で予定なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町ホームページによる公開	平成30年2月20日～平成30年3月5日(2週間)	平成30年2月20日～平成30年3月5日(2週間)	メール、FAX	小坂町建設課
広報掲載・回覧・個別配布	ホームページと建設課窓口閲覧の旨を広報に掲載				
説明会・ワークショップ					
その他	建設課窓口での閲覧				

住民の意見	特になし
-------	------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	木村鋭(小坂製錬(株)取締役総務部長)、戸田欣吾((株)秋田銀行小坂支店 支店長) 須藤学(鹿角公共職業安定所 所長)	平成30年3月14日	建設課(主管課)、総務課	小坂町振興計画審議会条例	振興計画審議会
その他の委員	佐藤明子(小坂町教育委員会 委員) 中村吉夫(小坂町農業委員会 会長)、大内正富(かづの商工会 副会長) 安保明(小坂町自治会総連絡協議会 副会長)、工藤保(小坂町社会福祉協議会 会長) 海沼誠子(小坂町観光案内人協議会 副会長)、成田祥夫(小坂町副町長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	※作成なし(作成した工程計画に基づき事後評価を実施)
	成果の評価	・成果の評価について、適正であると確認された。 ・指標1の観光入り込み客数の落ち込みは、東日本大震災の影響もあるが既存観光施設の落ち込みが大きいいため、その改善に向けての取り組みに期待したいという意見を伺った。
	実施過程の評価	・実施過程の評価については、適正であると確認された。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理について、適正であると確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、住民に対して適切に公表したことが確認された。 ・ホームページでの公表について、周知に不足はなかったかという質問が出されたため、広報での周知も行ったことを説明し、委員の了承を得た。
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると確認された。

審議事項※1		委員会の意見
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策の作成は、適正であると確認された。 ・事業は概ね有効に完了できたが、それを活かしたまちづくりを行って欲しいという意見を伺った。 ・「観光の町」を掲げているが、観光案内人を含め、町民を巻き込んだ住民総参加型の体制づくりが不可欠であり、その仕掛けづくりに努力して欲しいという意見を伺った。
	フォローアップ	・本都市再生整備計画については事後評価の結果を持って国に確定報告することとし、フォローアップは行わない。
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。
その他		・評価委員会開催結果を事後評価シートに反映し、国に提出すること。

都市再生整備計画(第2回変更)

明治百年通り周辺地区

秋田県 小坂町

平成28年 月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	秋田県	市町村名	こさかまち 小坂町	地区名	めいじひゃくねんどおり 明治百年通り周辺地区	面積	116 ha
計画期間	平成24年度～平成28年度	交付期間	平成24年度～平成28年度				

目標
大目標:「歴史性」「文化性」「生活利便性」が調和した、にぎわいと親しみのあるまちづくり 目標①:観光客が「現在・過去・未来」の小坂町を実感することができる空間の形成 目標②:地域住民が親しみを持ち、日常的に利用でき、併せて観光客と交流ができるにぎわい施設の整備

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・小坂町は、北東北3県のほぼ中央となる秋田県の北東部に位置し、町中央部には米代川の支川「小坂川」が流れ、北東部には国の特別名勝・天然記念物に指定されている十和田八幡平国立公園の「十和田湖」を抱えた、日本でも有数の自然に恵まれた風光明媚な都市を形成している。町域は東西21.1km、南北24.6kmに達し、総面積201.95km ² の広さを有しており、人口は、明治末期には2万人を有していたが、昭和60年の国勢調査では9,728人と1万人を割り込み、その後も減少が続き、平成23年国勢調査では約6,100人となっている。 ・江戸時代後期から金、銀、銅の採掘が行われてきた鉱山町であり。明治時代に入り官営化された小坂鉱山は、1800年代後半、黒鉱から金属を抽出する高度な技術を自前で開発し、その結果、戦前期の我が国において3大銅山の一つに成長した。 ・小坂鉱山の発展により町のにぎわいは最盛期を迎えたが、現在小坂鉱山は閉山し、町の空洞化が懸念されている。 ・平成22年の小坂町の観光入込客は年間約136万人であり、このうち宿泊者数は年間約13万人、日帰り客は年間約123万人となっている。しかし、観光客数は減少傾向にあり、平成7年のピーク時約162万人に対し、約26万人減少している。 ・「十和田湖」の豊かな自然、木造建築物としては日本最古の芝居小屋「康楽館」や「小坂鉱山事務所」をはじめとした近代化産業遺産群、エコタウンとしての「環境リサイクル産業」、環境保全型農業や資源循環型農業、安全性に特化した大規模養豚など、地域の特性を生かしたさまざまな資源があり、これらを活用したまち作りによるにぎわい創出を重点プロジェクトとして位置づけ、地区の課題解決と活性化を進めることにしている。
課題 ・小坂町の市街地は小坂川東側に位置する尾樽部通りの発展により形成されてきた経緯があるが、近年、建物の老朽化や店舗の郊外化、大型化などの影響により、かつての面影が無くなっている。 ・明治百年通りは、小坂の歴史的な建築物を集積させたことにより、広域的観光客を集客できる施設として育成されてきた。広域的観光拠点となる一方で、かつて催されていた市日が移転するなど、町民利用の場としての位置づけは薄れ、町民の日常的な利用はかつてほど見られなくなっている。 ・区域の西側には町民の生活の一部となっている大規模な総合公園や集客力のある交流施設が隣接しているが、明治百年通りとの交流は現在皆無となっている。 ・廃線となった小坂鉄道の設備を近代化産業遺産として利活用することが望まれる。 ・地域資源を活用し、まちなか再生に取り組むことにより町外観光客と地域住民との交流が必要と考えている。 ・現在、商店街は栗平地区に形成されているが、明治百年通りを訪れる観光客が足を運ぶことはない。 ・小坂中学校が平成25年春に小坂小学校隣へ移転予定であり、その跡地利用として老朽化した小坂町役場の移転が計画されている。
将来ビジョン(中長期) ・平成23年度から32年度までの10年間を計画期間とする「第5 次小坂町総合計画」では、まちの将来像(10 年後に暮らしたいまちの姿)を「“ひと”と“まち”が輝く 躍動する小坂 ～十和田湖と鉱山文化 人と自然にやさしい環境が 新しい時代を築く～」としている。 ・同計画では基本目標のひとつに「個性をみがき”躍動”するまち」を掲げている。その取り組み方針には①多くの人が訪れる魅力ある観光のまち②にぎわいと活気ある商業のまち、が挙げられている。 ・めざす姿には「町内に存在するさまざまな魅力がみがきあげられ、観光資源としてつながりが生まれ、町全体が活気に満ち、多くの観光客が訪れています」「観光関連産業だけではなく、農林水産業や商業など多様な産業・町民・行政が連携し、町全体の経済力や地域力が高まっています」「買い物客でにぎわい、商店に活気があふれています」「他の産業との連携が進み、商業ににぎわいがうまれています」としている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
小坂町の観光客数	人／年	小坂町中心部観光入り込み数(小坂町産業観光課数値)	小坂駅レールパークの新設や案内機能強化等による観光客数増加	142,868人／年	平成22年	164,000人／年	平成28年
活気があると感じる町民割合	%	まちづくりアンケートによる「活気があると感じる町民割合」	観光客と地域住民との交流によるにぎわいの創出により活気があると感じる町民が増加	15.4%	平成21年	29.1%	平成28年
観光振興の町民満足度	5段階評価	まちづくりアンケートによる観光振興の町民満足度	小坂鉄道テーマパークや明治百年通りにぎわい拠点整備により町民の観光振興満足度が増加	2.9	平成21年	3.5	平成28年

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
○にぎわい拠点づくり ・明治百年通りの中間に位置する駐車場などオープンスペースを活用し、広域観光促進機能と町民利用促進機能を有する拠点を形成する。 ・尾樽部通り、明治百年通りから移され、1と5の付く日に運営されている栗平地区の朝市に、観光客も入りやすく地域住民と交流のできる拠点を形成する。 ・近代化産業遺産として小坂鉄道の設備を利活用する。		・にぎわい拠点整備事業 ・栗平地区活性化センター整備事業 ・小坂鉄道レール・センター整備事業、小坂鉄道体験館整備事業、小坂駅レールパーク上水道整備事業、小坂駅レールパーク下水道整備事業 ・小坂町中央地区やすらぎベンチ整備事業 ・小坂川小水力発電整備事業
○回遊ルートの確立 ・小坂駅レールパーク内の駐車場と平成26年に移転予定の小坂町役場を駐車場として新たに整備する。 ・レールパーク入りの交差点については、歩行者の安全性を確保するための交差点改良、歩行者滞留空間の整備等を検討する。 ・明治百年通りと中央公園を連絡する路線として、康楽館西側の旧鉄道敷上に平面交差の連絡通路を整備する。 ・明治百年通りから現在商店街が形成されている栗平地区を結ぶ形で、今は人通りがまばらな町道を遊歩道として整備する。 ・小坂町役場移転予定地への歩道を含めた道路整備を行う。		・小坂駅レールパーク駐車場整備事業 ・古館駐車場整備事業 ・明治の散歩道ポケットパーク整備事業 ・小坂鉄道中央公園連絡路整備事業 ・町道古館駅前線整備事業、古館駅前線連絡路整備事業 ・町道向陽2号線整備事業、町道苦竹山崎線整備事業、小坂町役場移転整備事業 ・小坂町中央地区やすらぎベンチ整備事業 ・セパーム渡り廊下整備事業 ・小坂川河川公園整備事業
○エリア案内機能確保 ・各所に点在する歴史的建造物を説明する情報案内を整備する。		・施設案内機能整備事業
○デザインコードによる景観形成 ・小坂町の発展を支えた明治時代の近代化産業遺産である鉱山文化を醸し出すような景観を形成する。		・モニュメント設置事業
その他 ○にぎわい創出に向けた活動 ・行政及び地元住民・企業とのまちづくりに関する協議会等を定期的に開催し、明治百年通り、栗平地区に整備するにぎわい拠点での社会実験等の企画や役割分担などを話し合い、にぎわい創出に向けた施策展開を推進する。 ○交流人口増加のための活動 ・明治百年通りと既存商店街とを結ぶ歩行動線を強化することにより、双方の交流を促すための施策展開を地元商店会や住民とで推進する。		

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	682	交付限度額	272.8	国費率	0.4
---------	-----	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業	事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費	費用便益比 B／C	
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度							
	道路		町道向陽2号線整備	小坂町	直	L=110m	25	26	25	26	65	65	65		65	—	
	道路		町道苔竹山崎線整備	小坂町	直	L=240m	28	28	28	28	59	59	59		59	—	
	公園																
	古都保存・緑地保全等事業																
	河川																
	下水道																
	駐車場有効利用システム																
地域生活基盤施設	広場	明治の散歩道ポケットパーク整備	小坂町	直	200㎡	27	28	27	27	70	70	70		70	—		
		小坂駅レールパーク駐車場整備	小坂町	直	乗用車70台	24	24	24	24	7	7	7		7	—		
		古館駐車場整備	小坂町	直	大型車20台 乗用車50台	27	27	28	28	31	31	31		31	—		
		情報板	案内機能整備	小坂町	直	30箇所	27	28	27	28	69	69	69		69	—	
高質空間形成施設	緑化施設等	モニュメント設置	小坂町	直	3体	27	27	27	27	25	25	25		25	—		
		町道古館駅前線整備事業	小坂町	直	L=310m	27	27	27	27	94	94	94		94	—		
高次都市施設	観光交流センター	にぎわい拠点整備	小坂町	直	95㎡	25	25	25	25	43	43	43		43	—		
	中心拠点誘導施設																
	連携生活拠点誘導施設																
	生活拠点誘導施設																
	高齢者交流拠点誘導施設																
既存建造物活用事業	観光交流センター	小坂鉄道レール・センター整備	小坂町	直	227㎡	24	24	24	24	44	44	44		44	—		
	土地区画整理事業																
	市街地再開発事業																
	住宅街区整備事業																
	バリアフリー環境整備事業																
	優良建築物等整備事業																
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型 沿道等整備型 密集住宅市街地整備型 耐震改修促進型																
街なみ環境整備事業																	
住宅地区改良事業等																	
都心共同住宅供給事業																	
公営住宅等整備																	
都市再生住宅等整備																	
防災街区整備事業																	
合計										507	507	507	0	507	—	…	

...A

提案事業(継続地区の場合のみ記載)

事業		事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費		交付対象 事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分		
地域創造 支援事業		小坂駅レールパーク上水道整備	小坂町	直	150m	24	24	24	24	1	1	1	0	1
		小坂駅レールパーク下水道整備	小坂町	直	150m	24	24	24	24	8	8	8	0	8
		セバーム渡り廊下整備	小坂町	直	43.75㎡	24	24	24	24	36	36	36	0	36
		小坂鉄道体験館整備	小坂町	直	1163㎡	24	24	24	24	112	112	112	0	112
		小坂鉄道中央公園連絡路整備	小坂町	直	L=60m	27	27	28	28	6	6	6	0	6
		小坂鉄道古館駅前連絡路整備	小坂町	直	L=40m	28	28	28	28	6	6	6	0	6
		小坂町中央地区やすらぎベンチ整備	小坂町	直	8箇所	28	28	28	28	4	4	4	0	4
事業活用調 査			小坂町	直		28	28	28	28	2	2	2	0	2
まちづくり活 動推進事業														
合計										175	175	175	0	175
													合計(A+B)	682

75 ...B

(参考) 関連事業

[illegible]